

伝灯奉告法要

ご縁に遇いましょう



2016(平成二十八)年10月1日より
2017(平成二十九)年5月31日まで全
10期80日80座でご修行になります。早良組
では、各小組合での団体参拝や各寺・各個人
での参拝が計画されていますが、当日の
個人での一般参拝も可能です。

また、協賛行事として、伝灯奉告記念参
拝式・結婚式・初参式・金婚式・銀婚式など
の各種お祝いの儀式(事前申込要)、境内白
州ではオーブンカフェ形式で、喫茶や軽食・
京都の土産物など買物が行える店舗の設
置やお茶所内で「布教リレー」や「仏事相
談」などの実施。書院・飛雲閣の特別公開。
龍谷ミュージアムでの特別展の開催などさ
まざまな催しがとり行われます。

ぜひ一人でも多くの方に参拝いただき、ご
縁に遇っていただきたいと思ひます。



早良組 こども花まつり

平成28年3月31日 明性寺

3月31日、早良組明性寺にて
「花まつり」が開催されました。ご
講師にToy×ボーズのゲームク
リエイター佐藤慶樹さんを迎え、
話題の脱出ゲームを行いました。
「甘茶かけ」の後には手品を交え
た法話を下さり、子どもたち
も興味津々。脱出ゲームでは各年
齢に合わせた謎が出され、保護者
の方まで一緒になってとても盛り
上がりました。

甘茶かけやご法話などお寺ら
しい行事とともにイベントを行う
ことで、子どもたちはお寺を身近
に感じてくれたことと思ひます。



「東照山 真教寺」福岡市早良区大字飯場

早良組の今と昔を垣間見るシリーズ「さわら今昔物語」。
今回は早良区大字飯場「真教寺」の今と昔をご紹介します。

さわら 今昔物語



鉄砲の弾が入った像

◀旧本堂 ▲真教寺本堂

「東照山 真教寺」は永正八年(1511年)寺田正玄の開基とされる。開基の頃は現在地より雷山方向、徒歩一時間ほど登った通称「センスイ」と呼ばれる山中にありました。現在地に移転した記録はなく不詳です。昭和二十九年には、葦葺屋根だった本堂を瓦葺に変えられ、永年の風雨に耐えた本堂も平成十年に解体、現在の本堂の新築再建となりました。明治時代には、「佐賀の乱」の戦いが飯場村でもありました。その時の兵隊が撃った鉄砲の弾が、旧本堂向拝の像の彫刻に当たり、今も鉛玉が入ったままの像が残っています。本堂は負傷した兵士の為の野戦病院になったとも言われています。



「私たちが新執行部です。」
～組長より挨拶～

平成28年熊本地震により、犠牲となられた方々に謹んで哀悼の思いと、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。また、被災地等でボランティアや復興支援に携わっておられる方々に敬意を表させていただきます。

この度、早良組組長を仰せつかりました順光寺住職青木秀美と申します。この執行部は副組長・西応寺住職小林浩城、副組長・顕乗寺住職松井明憲、副組長・教善寺住職小田部寛史の四役の体制でまいります。前執行部から引き続き

き、早良組重点プロジェクトは「東北被災地支援活動・三点セット運動・離郷門信徒の集い開催」を実践目標と掲げています。皆様のご協力を仰ぎ、全力で取り組みたいと思ひます。
本年10月から来年5月まで本山にて勤修されます
「伝灯奉告法要」は「うけつぐ伝灯 伝えるよろこび」をスローガンとしています。各寺院におかれましても「親鸞聖人のみ教え」をお守り下さった先達のご苦労がありました。私達も、この法要を機縁とし、先達の方々が手を合わされていたお姿を思い出し、共にお念仏をよるこぼせていただきますように。

合掌



お持ちですか? 敬いの気持ちとカタチ

早良組 だより



聖典・念珠・式章 三点セットのすすめ



早良組の重点プロジェクトの「三点セット運動」の「三点」とは、聖典・念珠・式章のことです。これらをお参りの際にご持参いただくことをおすすめする運動が「三点セット運動」です。



聖典

聖典

日常勤行聖典には、『正信念仏偈』や『仏説阿弥陀経』など、浄土真宗の門徒にとって大切な教えが書かれています。聖典は頂戴(額の高さにも頂戴)してから開き、閉じた後にも同様に頂戴します。一人に一冊、自分用の聖典を用意して、ともに勤行(おつとめ)いたしましょう。

《聖典の表紙のいわれ》

私たちが使っている聖典は、赤い表紙のものが多く見られます。この赤色は血染めの赤といわれています。

蓮如上人の時代(1474年)に、吉崎御坊で火災があった時の出来事です。燃えている御坊の中には、大切な親鸞聖人御真筆の聖典が残されていたので、一人のお弟子さんが取りに行きました。聖教を発見しましたが、戻り道がふさがって引き返すことができません。このままでは命もろとも聖教まで燃えてしまうと、考え、懐中より小刀を取り出し、腹を十字に捌き、その腹の中に聖教を深くおさめ入れ、燃えないように身を挺して守ったのです。焼けた御坊の跡には、真っ黒になったお弟子さんの姿がありました。このお弟子さんの遺徳をしのび、赤い表紙の聖典が生まれた一説があります。(※吉崎御坊蓮如上人記念館ホームページ参照)

念珠

お念珠は仏前に礼拝するときには欠かせない大切な法具で、一般的には珠数(数珠)ともいわれています。

形や用い方は宗派によって多少の違いがあります。お念仏の回数を数えたりするためにも用いることもあるようです。浄土真宗本願寺派では「念珠」といい、阿弥陀如来さまをつつしんで敬い礼拝(合掌・礼拝)するときの法具として用います。

蓮如上人はお念珠を持たないのは阿弥陀如来さまを手づかみにするようなものと述べられ、お念珠を持つことをすすめてくださっています。珠の数は百八・五十四・三十六・二十七・十八など色々で、珠の大きさによっても違いがあるようです。

お念珠の持ち方は、房や紐を下にたらし、腕にかけたりせず(腕輪念珠は別)、いつも左手に持ちます。合掌のときは、指を閉じてのぼし、お念珠を両手にかけて、房や紐を下にたらし親指で軽くおさえます。

また腕輪念珠は念珠を小さくしたもので、いつでもどこでも礼拝できるように作られたもので、魔除けや占い用ではなく、あくまで法具として用います。なお切れたお念珠は仏壇店や念珠店で修理してもらえます。

式章

「威儀を正す」という言葉があります。僧侶のお袈裟には「威儀」といって袈裟を結ぶ紐があり、そこを正しく結ばないと着用できません。法要前に心を落ち着かせ、身なりを整えてから阿弥陀様に手を合わせます。そこから、身なりを整える時に「威儀を正す」と言われるようになります。(諸説あり)

では、一般門徒が仏前でお参りをする場合、どのような服装がふさわしいでしょうか。和服が主流であった時代は、袴が男子正装の一種で、通常は肩衣と袴からなっており、当時、肩衣の着用は最高の敬意を表す正装だったそうです。今でも大法要などでは着用している姿が見受けられます。しかし、時代の流れの中で、西洋文化の洋服を着るようになると肩衣では合せにくくなったため、洋服に合うように、昭和七年に「式章」が制定されました。それ以降、真宗門徒にとって式章は仏事の際の正装とされるようになりました。

門徒式章は基本的に男女兼用ですが、仏教壮年会や仏教婦人会等、会によっては指定されていますので、ご購入の際にはお手次のお寺さんにご相談して下さい。

身だしなみとマナー



合掌・礼拝

お念珠を両手に通し、房を下に垂らします。合掌した手は身体に対して胸の前で45度を保ち、口にお念仏をお称えします。腰を支点にしておもむろに身体を45度倒します。



聖典の頂き方

聖典は胸の前で水平に保ち、肘を支点に聖典の下端を目の上におし頂きます。



式章の向き

首元に下り藤が付いている式章は上下を間違えないように着用しましょう。

それぞれに意味やいわれ、作法があります。その「こころ」に触れていただき、床に置いたりトイレに持ち込む等、粗末に扱わないように心掛けましょう。